

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 15 日作成)

委員会名	音響数値解析 WG	主 査 名：大鶴 徹
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境小委員会)	委員長名：藤本 一壽
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>建築周辺の音環境を予測する数値解析手法に関し、設定条件等と精度や有効性の関連、使用に際する制約などの学術基盤を網羅した確固たる基盤の整備と、それらを応用し実務で活用する際に不可欠な情報を提供できる自律更新型 Home Page の整備を目的とする。</p> <p>(初年度)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベンチマーク問題群の設定に関する議論</li> <li>2. WWW上への公開に向けたシステム作りおよび公開</li> <li>3. 解析結果の収集</li> </ol> <p>(2 年度)：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. WWW上での公開 (継続) および解析結果の収集</li> <li>2. ICA等内外学会での成果発表</li> <li>3. シンポジウムの開催</li> </ol>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>大鶴徹 (大分大学、主査) 佐久間哲哉 (東京大学、幹事) 坂本慎一 (東京大学、幹事) 河井康人 (関西大学) 堀之内吉成 (京都大学) 鮫島俊哉 (九州大学) 大嶋拓也 (新潟大学) 富来礼次 (大分大学) 安田洋介 (東京大学) 横田考俊 (小林理研) 池田雅弘 (ヤマハ) 大久保朝直 (小林理研) 高橋顕吾 (ヤマハ) 榎本貴之 (サイバネット、オブザーバー)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2004 年度予算	76,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>第 1 回委員会 (6 月 1 日・11 名) 第 2 回 (8 月 5 日・11 名) 第 3 回 (10 月 20 日・台風のためメールにて審議) 第 4 回 (1 月 11 日・12 名) 第 5 回 (3 月 2・5 名) シンポジウム (3 月 4 日、42 名)</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計 4 回の委員会を開催し、ベンチマーク問題群に関し議論を行った。その結果はホームページへ順次反映させている。</li> <li>2. 検討過程で得られた有益な知見は、2004 年 4 月に京都で開催された ICA2004 (国際音響学会) やその直後に淡路で開催された RADS2004 (室内音響シンポジウム) で合計 13 件の論文として発表した。また建築学会大会その他でも、公表を行っている。</li> <li>3. 2005 年 3 月 4 日東京大学において、P. Svensson 教授 (ノルウェー科学技術大学)、S. Marburg 教授 (ドレスデン工科大学) をゲストスピーカーとして迎え、WG の活動に関し合計 42 名 (内訳：大学関係 21 名、企業等 21 名) の参加のもと「音響数値解析技術のベンチマーク構築に向けて」と題するシンポジウムを開催した。広く一般の参加者を募り、かつ、海外研究者からの意見を聴取することで、内外へ WG 活動の存在をアピールしている。なおベンチマーク問題に関し寄せられた意見は、今後の活動へ反映していく。</li> <li>4. インターネット上のウェブサイト (<a href="http://gacoust.hwe.oita-u.ac.jp/TCCA-RRT/index.html">http://gacoust.hwe.oita-u.ac.jp/TCCA-RRT/index.html</a>) の内容の更新とホームページデザインの改訂を行った。</li> </ol> <p>委員会 HP アドレス：<a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s9/wg2003_1.html">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s9/wg2003_1.html</a></p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<p>年度当初から国際学会その他で発表活動を活発に行った。また委員会では年度末のシンポジウムへ向けた議論がなされ、その成果が WWW やシンポジウムでの講演内容へ反映されている。シンポジウムは合計 42 名の参加があり、海外からのゲストスピーカーを含め熱の入った議論が交わされ盛会であった。ホームページのデザインも更新され、広く世界からの利用を期待している。</p> <p>以上、今年度の目標の達成度は十分と判断している。</p>
その他評価すべき事項	